

I 経営の概要

1 学校経営の基盤

大内小学校は、平成28年4月、上川大内小学校と下川大内小学校の2校が統合し、新しい学校として開校した。開校8年目の今年も、コミュニティースクールの学校として、地域の願いや期待を受け止め、地域の多様な文化に積極的に関わることで優れた教育環境をさらに創り上げていく。ふるさとに誇りをもち、主体的に行動できる子どもの育成を目指し、地域とともにある学校づくりを進める。

(1) 地域の概要

校舎は、旧大内町の中心地であるJR羽越線羽後岩谷駅より北西に約10kmの地点に位置し、校舎脇を国道105号線が走っている。旧大内中学校の校舎を1年かけて改修した校舎である。

学区は、芋川沿いに広がる農村地帯で、芋川上流の上川大内地区と中流の下川大内地区の二つから成り、広範囲にわたる。北は秋田市雄和方面、東は大仙市南外地区、南はへ横手市大森地区に接する地域に集落が散在している。また、豊かな自然環境に恵まれ、県指定天然記念物の植物や市指定無形民俗文化財の梵天や番楽などの伝統文化が残っている自然と文化の宝庫でもある地域である。

住民のほとんどが兼業農家で、三世代家族の形態をなしている。祖父母が農業に従事し、父母が会社員や諸官庁等に勤めている家族が多い。地域には、素朴な人情が息づいており、PTA活動や諸行事・奉仕活動へも協力的である。保護者をはじめ、地域の人々は学校教育に寄せる関心も高く、地域全体で子どもたちを見守っていこうという気風がある。また、地域に対する所属意識も大切にしている。

(2) 子どもの実態

本校の子どもは、男子47名、女子39名、合計86名である。登下校は、一部は集団登校だが、学区が広範囲であるためと安全に通学できるよう、スクールバスの送迎車両が6台運行され、約8割の子どもが利用している。スクールバスは中学校との混乗の路線もあるため待ち時間が長く、放課後に子どもが安全に学校で過ごせるように「放課後子ども教室」（キピー大内小学校教室）を開設している。

子どもたちは、明るく素直で基本的な生活習慣は概ね身に付いている。上級生は下級生の面倒をよくみており、学年に関係なく仲良く遊ぶことができる。学習面においては、「学びをつなぐ」をキーワードに研究を積み重ねてきたことで、学習や生活の中で学びを生かそうとする意識が向上してきている。また、学力に関する諸調査では概ね力を発揮しているが、学年差や個人差が大きい。さらに、「条件に応じた説明・記述する力」に課題が見られる。

2 経営の基本方針

学校の主役は子どもであり、子どもの「学力保障」と「成長保障」が学校の果たす役割である。そこで、子ども一人一人のよさを認め、主体性を育むことを学校経営の柱にし、「4甲斐～学びがい・居がい・やりがい・いきがい～」をキーワードにして学校経営を進めていく。

(1) 子どもを主語にした教育活動の実現

- ・子ども一人一人が「学びがい」を感じ、主体的に生き生きと授業を楽しむ姿を求めて、分かる授業づくりに取り組んでいく（学力の保障）。
- ・安心して学校生活を送り、友だちや教師との関わりの中で、笑顔溢れる表情で過ごすことができる「居がい」のある学校・学級づくりに努める。
- ・子ども一人一人が、友達や教師との関わりの中で達成感や成就感をもち、満足した表情で学校生活を送ることのできる「やりがい」のある諸行事・諸活動を組み、成長の保障に繋がるように目的を明確にし、計画・実践していく。

(2) 共に学び合い、高め合う教職員集団

- ・「チーム大内小」として、教職員一人一人の研修意欲と同僚性を高めながら、主体的・協働的に学び合い、共に高め合い自らの資質向上を目指す。
- ・4甲斐を通じた実践の積み重ねによって校章のコンセプトである「和と向上」を具現化し、子どもの成長を「いきがい」として日々の実践を大切にする教師集団を創り上げる。
- ・1年間をIV期に分け、経営の重点を明確にして評価、改善に努め、次期の経営に生かしていく。

(3) 家庭・地域との連携による開かれた学校づくりの推奨

- ・子ども、教師、保護者、地域の人々の相互の関係をより確かなものにし、人との関わりや交流を大切にする教育活動を通して人と関わりながらよりよく生きていこうとする社会性を培っていく。

3 学校教育目標と目指す姿

(1) 学校教育目標

自ら考え 判断し ^{あした}明日を創る子どもの育成

(2) 目指す子ども像

よく学び よく遊び 瞳輝く子ども

- 「なぜ」「どうして」「どのように」を考え、学び続ける子ども（知）
- 友だちを大切にし、共に関わり、高め合い、仲良くできる子ども（徳）
- 心と体をきたえ、粘り強く、一生懸命がんばる子ども（体）

(3) 目指す学校像

4 甲斐のある学校～学びがい・居がい・やりがい・いきがい

- 子どもの学びと成長を保障する学校(学びがいのある学習)
- 子どもが安全に安心して過ごせる人に優しい学校(居がいのある学校・学級)
- 全校体制で子どもの成長に資する組織力の高い学校（やりがいのある行事・活動）
- 家庭・地域・学校がお互いに協力して創り上げる開かれた学校（いきがいにつなぐ学校）

(4) 目指す教師像

子どもに寄り添い 支え つなぐ

- 子どもを愛し、子どもに寄り添う教師
- 子どもの思いや願いを大切にし、意欲を高める教師
- 研修に励み、高い専門性と人間性を追求する教師
- 子ども・保護者・地域に信頼される情熱ある教師

4 経営の重点と具体的施策

(1) 学級づくりを基盤とした学び合う集団づくり

- ①認め合い、支え合う人間関係の構築
- ②学習の約束や生活の約束の徹底
- ③目標の設定と振り返りの重視

(2) 資質・能力を育む各教科等の指導～学びをつなぐ子ども～

- ①問いや思い、願いを基にしたつながる学びの展開
- ②考えを共有し深め合う学び合いの充実（ICTの活用）
- ③学びの状況を自覚できる評価の充実
- ④学びを支える活動の計画的な取組

(3) 豊かな心とたくましい体を育む体験的な活動の充実

- ①基本的な生活習慣の確立、あいさつ、返事の励行、食育指導
- ②自主性や主体性を育てる縦割り活動や委員会活動
- ③道徳的実践力を高める各教科・領域の効果的な指導
- ④自他の生命を守る安全意識と危機管理能力の育成

(4) 児童一人一人の教育的ニーズに対応した指導・支援の充実

- ①特別支援教育校内委員会を核とした校内支援体制の確立
- ②ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた支援の共有

(5) 教職員一人一人の資質能力と組織力の向上

- ①自己研修を支える体制づくり
- ②課題を明確にした校内研修の充実